

## 凡例

- 一、本巻は琉球王国評定所文書、第十六巻である。
- 一、本巻は国立公文書館所蔵の琉球評定所書類の一六八七号・一六八八号・一六八九号・一七二三号文書、及び東京大学法学部法制史資料室所蔵の琉球評定所記録の一七七〇号文書を収録したものである。
- 一、収録史料中の標題に付されている番号(例、一七七〇など)は旧琉球藩評定所書類目録(東京大学史料編纂所所蔵)の中の整理番号である。
- 一、本巻は旧琉球藩評定所書類目録の中の整理番号に従い、通巻番号順に収録してある。
- 一、各号文書の本文見出しは、旧琉球藩評定所書類目録に従っており、史料標題と異なる場合がある。
- 一、本巻は巻頭論考と、各史料ごとの解題、史料本文、および標題のみ文書よりなるが、各史料ごとの解題

の末尾には解題執筆者を明示してある。

- 一、筆耕は法政大学沖縄文化研究所所蔵の写真複製本のコピーを用いて行い、判読の困難な部分については浦添市立図書館沖縄学研究室所蔵の写真複製本と、原本で照合した。

一、収録に際しては出来るだけ原史料の体裁を留めるよう努力したが、編集の都合上、以下の変更を加えた。

- 1 旧漢字は原則として新漢字に改めた。
- 2 「里」「筑」の略字体はそれぞれ「里之子」「筑登之」と表記した。
- 3 変体仮名(は、わ(え)、あ(て)、う(と)、あ(も)、ぶ(より)、ん(して) はそのまま生かし、他は原則として平仮名に直した。  
例、機↓き、留↓る、楚↓そ、連↓れ、など。
- 4 「宛」(つづ)の意味を示す「完」は、訂正せずそのまま用いた。また、慣用誤字と思われる、「脱体」「売物」については、比嘉春潮の指摘に従い、それぞれ「総体」「穀物」と改めた。

- 5 朱書の箇所は「」でくくり区別した。
  - 6 原文の抹消は傍点、を文字の左に付した。ただし、本文行が墨線で抹消されている箇所については、原型がわかるように、「見え消し」の手法を用いた。
  - 7 明らかな誤字・脱字については、( ) で訂正するか、または(ママ)と注記した。
  - 8 判読できなかった文字は□や□□で示し、虫損(虫喰)などの理由で判読不可能なものは□□あるいは□□と表記した。
  - 9 原史料にはないが、句読点及び並列点を付した。
  - 10 行間の書き込みが長文に及ぶ場合は、関連文書の文末にまとめた。
  - 11 付箋は、それが現在ではさまれている場所に図記号を付して、その下に付箋の内容を記した。
  - 12 各号文書ごとに算用数字で通し番号を付した。
  - 13 文書の内容が関連する場合には枝番号を付した。
- 一、本巻収録の国立公文書館所蔵文書(一六八七号・一

六八八号・一六八九号・一七二三号)の表紙には、内務省に保管されていた時期のものと思われる付箋および札が付けられている。本巻では可能なかぎりそれらの再現につとめた。

一、本巻収録の史料の活用については、東京大学法学部法制史資料室、及び国立公文書館内閣文庫の理解と協力を得た。記して感謝申し上げます。